

シリーズ  
1 西船越

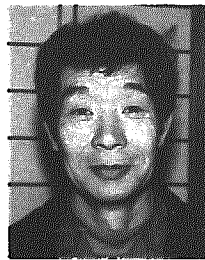
# 古い伝統と新しい波

はじめに「今月から「広報いわむろ」は、いままでのB5判サイズから、ちよっと大きめのA4判サイズに模様替えをしました。情報量は従来型の約30%アップ。これにより、編集の仕方もちよっと変わったことから、今号から村内の各行政区(全部で四十三の行政区があります)へおじゃまして、地域のいろいろな話題などをお届けする「おじゃまします」地域情報ネットワークというコーナーを新設しました。スタートの今月は、財団法人・自治総合センターから宝くじの還元助成をうけ、地域の活力あるコミュニティ活動に取り組んでいる「西船越地区」をご紹介します。



地域づくりの契機となった「手づくりむら整備事業」

西船越は、ご存じのとおり古くから開けた地区で、明治三十四年ころまでは近隣地区を包括して、「船越村」を形成していました。西船越は、他町村にも同名の地名があったことから西の字が冠されたといわれます。また船の字がつくことから、昔は舟で往来していたのではないかと想像されます。江戸時代には、巻町峰岡の三根山藩下にあつたためか、現在でも峰岡往来やお蔵屋敷と呼ばれる俗称地名が残っています。そんな西船越がリード文で紹介したように、コミュニティ活動が盛んになった理由の一つに、昭和五十九年から三年がかりで進めた「手づくりむら整備事業」(本紙61年5月号参照)があります。農村の生活環境整備と地域コミュニティづくりを図るため、農林水産省が進めた、新しい時代に対応した農村地域づくりの波でした。メインの手づくりむら公園をはじめ、子供たちの遊具の新設やゲートボールコート造成など、地区が主体に事業計画をつくり、地区民が一体となって環境整備を進めました。一つの区切りがついた昭和六十二年、手づくりむら事業で得た地区民(民)一体の活動を宝くじ助成事業にのせました。一回めの申請では、見事?肩すかし(不採択)をくつたのですが、追加申請で採択され百五十万円の助成をうけることができました。これで、植栽やテント、案内板にプランター(花だん)などを整備し、明るい地域づくりにさらにはずみをつけました。「手づくりむら整備事業で得た地区民の心の交流が認められてうれしいですね。みんなが責任感をもって一つの事業を進め、気持ちひとつになれる、という良い意味の地域性・人間性があつたからでしょうか」と、まとまりの良さを語る大森区長。明治時代から続く洗心会やバサ講といった古きよき伝統と、親子レクリエーション、カラオケ大会といった新しいコミュニティの波がうまくマッチした西船越地区。規模的には、けつして大きくない地区ですが、人情味と伝統的なまとまりの良さは一級品という感じを強く受けました。

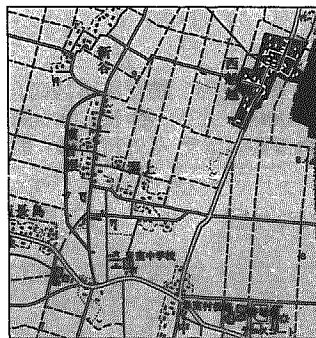


西船越区長  
大森正一さん  
(西船越・57歳)

地域づくり—これは、やはり温かい血のかよつた人と人との心のふれあいが基本のような気がしますね。

## 西船越でたてたデータ

### 位置図



## 西船越の横顔

人口と世帯数	
人口	154
男	74
女	80
世帯数	27

■春ですね。春といえは似合う言葉に「新鮮さ」がありますね。みずみずしい野菜にくたもの、あわてん坊の新一年生に躍動感あふれる新・社会人たち—なにもかも季節とともに新しく、そしてフレッシュに動き出します。そんな中、この春、もう一つ新たな挑戦をしたものに、この「広報いわむろ」があります。■創刊以来、二十六年間、ひたすら守り続けてきた?B5判サイズの殻を脱ぎ、今号からご覧のようなA4判サイズにスケールアップ(拡大)を計りました。■大きき新鮮さ?に比べ、内容的にはまだまだ不親切で申し訳ないのですが、新しく生まれ変わったことを契機に、みなさんの率直な生の声をお聞きしながら、人間味のある子供たちのように、確かな村の息づかいをお伝えできるように広報に育てていこうと考えています。よろしく…。忘れていましたが、様式変更により新しい広報つづりをお届けしますのでご活用ください。■ところで、みなさんは、どんなことで春を感じますか。風景?日脚の長さ?なに気なく?編集子は部屋に飾ってあるカレンダーからですね。(み)

## 編集後記